

3・11 東京電力福島第一原発事故から10年 フクシマを忘れない！ 原発再稼働ストップ！

東電に原発を動かす資格があるの？

―IDカード不正使用など問題が次々浮上―

10年前に福島原発事故を起こした東電はその組織体質が問われ続けてきました。東電が再稼働を急ぐ柏崎刈羽原発においては、今年に入ってからだけでも許しがたい問題が次々に明るみに出ています。原発の心臓部である中央制御室に他人のIDカードを不正使用して入室していたこと、完了したとしていた安全対策工事に未完了のものがあつたこと等、東電への不信任は募るばかりです。東電に柏崎刈羽原発の再稼働を許す訳にはいきません。

大雪時に安全に避難できるの？

―「避難委で徹底検証を」と県に申し入れ―

二月八日原発ゼロ長岡市民ネットは、さようなら原発、長岡放射線測定会と共同で、避難委員会の検証作業に関して期限を設けず徹底的な検証を行うよう花角知事あてに要望書を提出しました。昨年末に県が「避難委の役割は抽出した課題の整理までとし、課題にどう対応するかは県が検討する」としたことに反論。現避難委で避難計画の実効性等を引き続き徹底的に議論するよう求めました。

「原発なくしたい」の思いを示そう

3・11長岡集会

2時半にアオーレ・ナカドマへ



東電の住民説明会に参加して

「廃炉時代に入った原発」 中野信夫

忘れもしない二〇一一年三月の福島第一原発の重大事故から十年が迫った二月八日、「東電説明会」が開かれた。

私は、「原子力発電は、今や歴史的使命を終え、深刻な廃炉と使用済み核燃料の最終処理に真剣に向き合う」東電の覚悟を質した。しかし緊張感のない無責任な回答に絶句した。

全国の五四原発のうち約四割の廃炉が確定している。しかし廃炉技術が手探り状態であったり、全国の三千トンの使用済み核燃料の中間・最終処分も遅々と進んでいない。再稼働は運転中の危険度を高め、気の遠くなるような世代まで負荷をかける危険な「核のゴミ」の増産に他ならない。

二〇一一年当時の勝俣東電社長は原発事故の責任を負わず去った。再稼働に走る新潟本社代表や原発所長などの幹部も次々去る。今回の事件は、怒りの内部告発かも知れない。残るのは廃炉を待つ老朽原発と膨大な核廃棄物、汚染された砂丘だ。

「まさに野となれ山となれ」の光景だ。新潟県民の団結した総意こそが、いのちと故郷、未来の世代を守る力だ。

◆花角知事は技術委不再任方針撤回を！

◆花角知事は選挙公約を守り、「三つの検証の徹底」「県民の信を問う」の実践を！

◆規制委は「東電に原発を動かす適格性があるのか」再評価を！

原発ゼロ長岡市民ネットニュース

第108号 2021年2月28日発行

連絡先

広井洋子 長岡市寿2-5-15
電話・FAX 0258-24-2870
佐藤 090-4925-3707